

# 九条だより

第169号

北広島九条の会 2022・01・01 発行  
事務局 梁川彰博 (ヤガダリアキヒロ)  
TEL・FAX 375-9600  
メール kitahiro-9jounokai@live.jp  
ホームページ [www.kitahiro9.org](http://www.kitahiro9.org)

## 2022年 謹賀新年

2022年、あけましておめでとうございます。皆さま、よいお年をお迎えることと存じます。今年はいまだに「改憲」への圧力が強まり、私たちにとって、正念場を迎えることになりました。改憲を許さない草の根の運動をさらに大きくしていきたいと思えます。

変異株オミクロンの出現で、まだまだ予断を許さない状況が続いています。感染にはくれぐれもご注意ください。

<1月のお知らせ>

\*「成人式宣伝」を行います。

**1月9日(日) 午後2時~3時半、芸術文化文ホール正面にて。**

\*「まなび座」 1月22日(土) 午前10時~広葉交流センター。

テキスト 本田由紀著『「日本」ってどんな国?』ちくまプリマー新書

☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆

総選挙後の改憲問題の新たな局面を迎えて 2021. 11. 12 九条の会

10月31日に衆議院議員選挙が行われ、自民党は議席を減らしたものの単独過半数を維持し自公政権の存続が決まりました。維新の会の大幅議席増により自公と維新を合わせた改憲勢力は334議席となり、衆議院の3分の2を超える議席を獲得した結果、改憲問題は、新たな局面を迎えました。(中略)

岸田政権がまず手をつけようとしているのは、安倍・菅政権が推進した9条破壊の加速化です。対中国の軍事同盟強化を目指した「国家安全保障戦略」と「防衛計画の大綱」の改定を来年末までに強行し、中国を念頭においた「敵基地攻撃能力」の保有、日米共同演習の強化、そして辺野古基地建設強行などを推し進めようとしています。

同時に、岸田自民党は、憲法9条明文の改憲にも踏み込むべく、臨時国会における憲法審査会での改憲案討議入りを狙っています。維新の会松井一郎代表の「来年参院選と同日に改憲国民投票を」という発言や国民民主党との憲法審査会毎週開催合意は、こうした自民党の明文改憲への策動を応援するものです。(中略)

九条の会をはじめとした市民の草の根からの運動は、自民党などによる改憲の企図を阻み続けてきました。とりわけ、安倍政権の下、衆参両院で改憲勢力が3分の2を占めて以降も、市民と野党の共闘の頑張り、幾次にもわたる全国統一署名運動、それに鼓舞された立憲野党の奮闘により憲法審査会での改憲案審議を行わず、19年参院選では改憲勢力3分の2を打ち破って安倍改憲を挫折に追い込みました。来年の参院選に向けた新たな改憲の動きに待ったをかけるのも、この市民と野党の共闘の力以外にはありません。

この力に確信を持って、市民の皆さんが、改憲と9条破壊の阻止のため、決意を新たに立ち上がられることを訴えます。

☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆

## 「家族の体験を重ねて、広島、原爆、いのち、そして陶芸を語る」 ——12月5日「平和のつどい」での福山桂子さんの講演——

主催者である北広島市の原水爆禁止協議会と講演をされた福山桂子さんのご承諾を得て掲載します。「平和のつどい」講演会には約40人の市民が参加、会場では福山さんの「陶芸作品」が展示されました。

2歳から26歳まで広島に住み、家族や教師から被爆体験を聞きながら育った福山さんは、勤医協札幌病院の小児科医で陶芸家です。

医学生時代にイギリスに留学していた時、クラスで原爆について話をした際、クラスメートから「原爆により戦争が終結し、連合軍兵士の命が救われた」と反論され、その後40年間原爆について語ってこなかった福山さん。原爆を陶芸で表現し語っていくようになったきっかけは叔母の病気と死でした。叔母（淑子：よしこ）は当時17歳で爆心地から2.2kmで被爆します。骨髄異形成症候群（被爆量が高いほど発症率が高く、正常な血液細胞が造られなくなる病気）による貧血になります。5~6年の貧血を経て、最後には急性白血病になり2019年に亡くなります。福山さんはこの事実から、怒り、悲しみとともに、なぜという想いがうまれ、表現へ向かい、語りにつながっていきました。

白血病の叔母を思う中で、叔父（敬文：としふみ）のことを福山さんは考えるようになります。当時14歳だった叔父は爆心地から1.3kmの屋外で建物疎開作業中に被爆します。叔父の父（福山さんの祖父）は、叔父を探し回ります。救護所にいた被爆者の多くは顔が判別できないほど全身が焼けただれていましたが、身に着けていたベルトの留め金でやっと息子とわかりました。祖父は瓦礫と火災の中を息子を背負って帰宅しますが、叔父は2日後に亡くなります。戦後25年たったころ、動員されて被爆死した学徒に対する叙勲が行われました。鈍い銀色の勲章と賞状が送られてきましたが、それに対し、いつも寡黙な祖母が「こんなもの！」と激しい怒りを示したと福山さんは語りました。

祖父の視点を想像しながら創作した作品（「敬文と淑子」）や、原爆炸裂時や直後を想像して怒りを込めて創作した作品など、展示した12作品それぞれに込めた思いと表現の意味を福山さんはていねいに語りました。

福山さんは最後に、「叔父の敬文は広島・長崎の多くの死者の、ただの一人に過ぎません。何十万人もの死者は想像することすら難しい。しかし、これからも自分の人生の時間と競争しながら表現を試行錯誤します」と語って講演を終えました。

参加者は「作品を実物を見て、原爆への怒り、いのちの尊さ、平和への思いをより強く感じました」と語っていました。

（福山さんの陶芸作品はインターネット <https://www.keikofukuyama.com/> で鑑賞できます。）

☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆

◎募金のお願い。当会は会員制をとっていません。皆さまの寄付による浄財が頼りです。ご協力をお願い致します。郵便振込み口座・北広島九条の会 02790-9-65384